



第2500地区 第6分区

帯広東ロータリー・クラブ会報

[2013-2014年度]

会長／梶川 融 幹事／高田 進 会報編集 メディア委員長／大塚 正昭

■創立：1984年6月15日 ■認 証：1984年6月18日 ■例会日：毎週火曜日 12:30～13:30

■事務局：〒080-0013 北海道帯広市西3条南9丁目 帯広経済センタービル4F Tel.(0155)25-7347 ■例会場所：帯広ワシントンホテル Tel.(0155)23-5111

創立30周年記念日まで あと123日 創立30周年記念実行委員会

第1415回例会 (2014年2月12日※ 於ホテル日航ノースランド帯広)

- ◎点 鐘 帯広RC渡辺会長
- ◎開会宣言 帯広RC及川SAA
- ◎ロータリーソング
- 奉仕の理想
- ◎講師入場 (先導) 帯広RC國枝副会長

ゲスト紹介

帯広RC渡辺会長

大和教育研究所 所長 小田島 祐一 様

会長挨拶

帯広RC渡辺会長



本日は、国際理解月間にともなう7RCの合同例会です。大和教育研究所、所長、小田島祐一様には、遠路お忙しい中、私達の願いをお聞き入れくださり大変有り難うございます。後ほど、ご講演を拝聴させていただきますので宜しくお願い致します。又、会員の皆さんに置かれましては、ご講演を期待されて居られる事と思いますが、何分不慣れゆえ、準備等不行き届きの面もあろうかと存じます、ロータリーの友情と寛容をもってご容赦頂きたいと思ひます。

さて、国際理解月間という事で過去のRI会長の中で日本人の方が3名おられます。その方々をご紹介してみ

たいと思ひます。一人目は1968-69年度会長の東ヶ崎潔氏です。彼はアメリカ生まれで英語ができ、アメリカ通でありその手腕を買われ、アメリカ経済使節団の通訳を務め日米の文化、通商に大きな役割を果たしています。

その他、ジャパントイムスの編集長、社長、会長を務めており、国際基督教大学の創立者でも有りました。ロータリークラブへの入会は、1949年終戦後の東京水曜クラブに入会1955-56年度東京ロータリークラブの会長を務め、翌年のフィラデルフィアの国際大会で講演し瞬間にRI会長になられた方です。二人目は1982-83年度会長の向笠廣次氏です。彼は福岡県大牟田市生まれの精神科医です。会長年次のテーマは「人類は一つ世界中に友情の橋をかけよう」で、前段の国際協議会では「世界中の人々はみんないとおなじなのです」と挨拶し、仮に、私たちが二人の子供を持ったなら、10世代後は1000人、20世代後は100万人、そして30世代後には何と10億人なり間違いなく一つの大きな家族で有ると云う事です。向笠氏は、スタン前会長のテーマ「ロータリーを通じ世界理解と平和を」支持、それらを拒む不信と猜疑を取り除くため、ロータリーの持つあらゆるプログラムを通じ友情の橋を架ける事を実現すると話されていました。三人目は2012-13年度会長の田中作次氏です。彼は1975年八潮RCチャーターメンバーとして入会以来1994-95年度地区ガバナー、2003-05年度RI理事を務め今回日本人として3人目のRI会長を務めました。何れの方もRI会長として国際社会に貢献され、日本ロータリーの評価を上げられております。この方々の後に続くロータリアンの出現を待たれるところです。

会務報告

帯広RC小田幹事

例会メモは各クラブにてご確認ください。

◎委員会報告・ニコニコ献金・出席報告はプログラムスケジュールにより割愛します。



大和教育研究所 所長 小田島祐一様

◇演題 国境を越えた人間作りから見える国際理解
～世界が称賛する「日本人という生き方」～

皆さんこんにちは、私は大学卒業後札幌で、15年間中学校の教員を務めていました。自分の気持ちの中にもこのままで良いのかと思っていた時期でもありました。偶々青年海外協力隊の事を知り、自分でも何か出来る事はないかとの気持ちで応募致しました。派遣先はウガンダとなりました。因みに、ウガンダは中央アフリカに位置し面積は241千平方キロ(日本の2/3)で人口2100万人、首都はカンパラ、近隣国はケニヤ、スーダン、コンゴがあります。赴任先はセントノア高校で高校生の教育でしたが、ウガンダ人気質というのか、国民性というのか時間を守らない、教室の掃除はしない、物を大事にしない日本人がごく当たり前と思っている事が出来ない、通用しないが現実でした。この現実を、スポーツを通じて変え

る事が出来ないか考え野球をしてみる事にしてみました。野球は集団、団体競技として一人ひとりが考え、行動を起こすスポーツで効果が有るのではないかと思います。まず、子供達に日本で行われている野球のビデオを見せ反応を見る事にし、その後、参加希望を取ると30数名の希望者が集まり集合時間を伝えて解散、そして翌日、集合時間には誰一人きません、1時間から1時間半後にポツリポツリと集まり来たのは5人です。こんな状況ですから練習もままなりません、また、練習中に彼女に耳掃除をして貰う者がいたりで、自分さえよければの気風が強く、まとまりが有りません。そこで私は、日本人の当りまえ基準を心に決め行動を起こしました。何をすることも大切な事は、時間を守る、仕事場を清める(掃除)、礼を正すでした。それは自分自身がウガンダの為に働きたいとの思いと、彼らを世界で通用する人間として育てたいとの思いでした。その最終目標として、ウガンダ野球チームを北京オリンピックに連れて行きたいでした。その前段、日本遠征で実力を試し、力をつけたいとの願いで、旭川の中3選抜チーム、日本ハムジュニアチームとの練習試合でした。遠征費用は6ヶ月間の募金活動で賄い、初めての練習試合に臨みました。当初、大敗するのではとの予想でしたが、まずまずの結果で、彼ら自身も、自分たちの力を知る絶好の機会でした。オリンピックの目標はまだまだ先ですが、近い将来、彼らたちが様々な事に、活躍する事を願い講演を終わらせて頂きます。御清聴ありがとうございます。

◎謝 辞
◎閉会宣言
◎点 鐘

帯広北RC佐藤会長
帯広RC及川SAA
帯広RC渡辺会長